

私が今回の東京研修で最も大きく心を動かされたのが、笹川平和財団の講師の方々とのグループディスカッションだった。まず、東京水産大学を卒業しキューピーに入社するという経歴を持つ守屋さんにお話を伺った。守屋さんはキューピーで新製品の開発をしている。私が守屋さんに聞いたかったのは新製品の開発にあたって気を付けていることだった。安全性という答えが返ってくるのかと思っていたがそれはもはや当たり前のことで、最先端の技術力や失敗を恐れずに挑戦することだとおっしゃっていた。守屋さんは中国で働いた経験がある。日本と中国の最大の違いは「チャレンジ出来る環境」であり、経済格差や戸籍の問題を抱える中国に比べ日本は何事にも挑戦しやすく、そのチャンスを逃さないようにすることが大事だと学んだ。また、失敗の理由をきちんと説明することで共に働いたことのない上司からの信頼を得ることが出来たということがあったそうだ。挑戦に失敗は付き物だが失敗した後に逃げない強さも必要だと学んだ。海外で働くとしても言葉は道具に過ぎず、信頼される人間を目指して欲しいという言葉が印象的だった。海外と日本で売られているキューピーのドレッシングや、マヨネーズの味の違いについて教えてくださいと守屋さんから、自分の仕事が好きで誇りを持っているのが伝わった。私も自分の仕事を笑顔で語れるような人になりたいと思った。

次は、2005年から日中関係の仕事を担当している小林さんにお話を伺った。海外で働く心構えとして、私達の班は、お互いの文化を尊重することが重要だと思っていた。もちろんそれは大事なことだが尊重するのにも限界があり、それに対応するかが大切だとおっしゃっていた。中国では会釈をする文化がないので、日本には会釈をする文化があるのだと中国人に事前に伝えておくのは当然だが、仕事上で日本人に対して会釈を忘れてたり間違えたりした時に、双方に上手く対応する力が必要であるそうだ。海外で働いている人らしい、生の意見を聞くことが出来るのは貴重な体験だと感じた。この仕事で小林さんが一番大切にしているのは、相手の要望に200%の力を尽くし、相手の想定以上の結果を出すことだと話して下さった。これに関する実際にあった例も教えていただいた。中国の記者が日本の武士を取材したいと話していたため、小林さんが鎌倉武士などのいくつかの案を出してみたが、どれも違うと言われたそうだ。中国人記者に武士のイメージを聞いたところ、それは剣道のことであったのだ。だがその人は鎌倉武士などの方を気に入り、最終的にそちらを取材することになったそうだ。相手の話を洞察し提案することで願いを引き出すよう努めているとおっしゃっていた。根気強さと冷静な対応が求められる難しい仕事でありながら、それをこなしている小林さんはカッコイイと思った。小林さんなら日本人が持ってしまふ中国に対する悪いイメージを払拭し、多くの人に日本と中国というお互いの国の良さを伝えていってくれと感じた。

次は留学を含め12年米国に駐在し、ブリジストンで働く藤村さんにお話を伺った。海外では幼稚園児の頃からshow&tellといって自分の好きな物を出し、みんなの前でそれを好きな理由を話すということをしている。これを通して、先に結論を述べ、後に理由を説明するという論理的な思考を身に付けられるそうだ。また、「なぜなぜノート」を作ることで、自分の行動の理由を説明出来るようになり、責任感が生まれるとおっしゃっていた。例として「なぜ東京研修に来たのか」を挙げてくださり、これをすれば自分の意思を確かめることが出来そうだと感じた。継続し、5年後良い結果を報告出来るかどうか私自身も楽しみである。私がした質問に対する回答で、海外に行った経験のない私は、はっとさせられた。多くの国が参加する会議では意見も沢山出ると思うが、会議をまとめるにはどうするのかと聞いたところ、会議をまとめようとするのは日本人の考え方であり、会議はまとめるものではないと回答して下さった。最終決定をする人がいるのだから、とにかく意見をどんどん出すことが大事だと教えていただいた。いくら日本の賢い人が集まって話し合っても出てくる意見には限りがある。外国人が一人その話し合いに入るだけで会議の中身がガラッと変わ

るそうだ。印象に残ったのは「出る杭になれ」という言葉だ。個性を出すことを恐れるなどというこのメッセージを忘れずにいようと思う。そして藤村さんは、私が苦手な「知らない人とでも話す」という行動が大事だとおっしゃった。

共通の話題を見つけて会話を続けることでコミュニケーション能力が育つし、苦手なことに挑戦するからこそ大きく成長していけるので、少しずつでも良いので心がけていこうと思った。

最後に、若いながらも震災のボランティアに積極的に取り組んでいる信氏さんにお話を伺った。信氏さんは高2の春から慶應義塾大学の経済学部を目指して周りより早く受験勉強をスタートしたとおっしゃっていた。これは結果として有利に働き、合格へとつながったと教えてくださった。復興に向けてボランティアをする人は、思いやりがあり被災者の方々にとって有難い存在でなのだろうと思っていた。それが事実であることに変わりはない。しかし、時に被災者の願いとボランティアの行動がミスマッチしてしまうことがあるそうだ。その場合、ボランティアの行動はただの自己満足になってしまうとおっしゃった。厳しい言葉だがそれもまた事実なのだと思った。被災者が何を願っているのかを聞き出し、それに基づいた行動をするよう気を付けているそうだ。大きな地震を体験した私達は、ボランティア活動をしてくれる人々の温かさを知っている。被災地での活動を教えて下さった信氏さんは、復興に貢献し、優しい雰囲気被災者の方々に希望を与える存在であるのだと思う。

その後私達は、アディーレ法律相談事務所で弁護士の方に話を伺った。弁護士の方に仕事について質問させていただくという貴重な機会を高校生で体験出来るのは恵まれていると感じた。弁護士とは接客業だとおっしゃっていて、依頼人をはじめ、人とのコミュニケーションが本当に大切であると教えて下さった。依頼者が持つ怒りの中で、何に不満があるのかを冷静に見極める力が必要とされる。興味深かったのは「心にダムを持つ」という言葉だ。依頼者の怒りに対して怒りで返すところくなことが無いそうだ。それは分かっている、つい余計な言葉を言ってしまうかもしれないが、それをしないのがプロの凄さだと思った。小説やテレビの影響なのか、難しいのは刑事裁判だと思い込んでいたが、実際は違った。残業代の請求は、最大過去2年分出来る。毎日の出勤時間や退勤時間などをパソコンに打ち込み、請求出来る金額を計算して求めなければならないそうだ。1ヵ所間違えただけでも計算が狂うので相当な集中力が必要だと思った。また、離婚を成立させるのは時間がかかるため、苦勞するそうだ。親権や財産分与など決定しなければならない条件が多い上に夫婦の仲が悪いことでなかなか交渉が進まないこともあるとおっしゃっていた。文句を言われたりすることもあるが思いがけない逆転勝利があると嬉しさも感じると教えていただいた。弁護士さんの終始落ち着いた口調と話術が依頼者の心を掴むポイントでもあると感じた。多くの質問に次々と回答し、分かりやすく淀みない説明のおかげで弁護士という仕事をテレビの中のものではなく現実的に捉えられるようになったと思う。

夕食後はOBOGとの懇談会があった。話を聞いていると、やはり高校1年生の時から頭が良かったのだなと感じた。一番心に響いたのは「どのような仕事をしたいのか、ではなくどのような人間になりたいのかを考えて下さい」という言葉だ。大学を決める上で、目指す職業ばかり考えていた。どのような人間になりたいかという人生で最も大事な基礎を全然考えていなかった自分に気付かされた。そして、「東京の高校生は当たり前のように皆東大を目指すのだから皆も目指せば良い。TOPを目指すのにメリットはあるがデメリットはない」と言われ、確かにその通りだと思った。可能性をわざわざ自ら潰す必要はないのだと感じた。さらに、一橋大学の先輩が世界一周をした写真を見せてくれた。笹川平和財団の方もおっしゃっていたが海外の人との交流は大切で、大学生になったら様々な国に行ってみるべきだというアドバイスをいただいた。イスラエルなどの国は日本人

から見ると危険なイメージだが、実際はそんなことは無いとおっしゃっていた。私も外国に行き、自分の目で見てその国に対する固定観念を崩していけたら良いなと思った。そして、それを少しでも多くの人に伝えていく必要があると感じた。

1 日目は以上の事柄があり、驚いたことに全ての話に共通する点があった。それは、「人間力」が大切だということだ。人と信頼を築き上げる、対話して自分では気付かなかったことを知る、意見交換によって物事を様々な視点で捉える、などのコミュニケーションが上手になるほど自分にとっても相手にとっても新しい発見が出来るのだということを学んだ。外国の人ともこれらのことが出来れば自分の可能性や視野を広げられるし、より自分を高めていけると感じた。だから、海外に目を向けず一生を日本で終えてしまうのは少し勿体無い事なのだと分かった。他国の言語を学び、それで意見を伝えるなんて大変だし海外へ行った経験がなくても不自由なく暮らせると思い込んでいた。しかしその考えでは成長出来ないと知った。自分が今まで経験したことがないことや苦手なこと・大変なことに自ら取り組んでみようかと挑戦している人が、日本や世界で活躍している人であると気付いた。自分が避けていたことこそ、実はやらなければならない。そしてそれと真剣に向き合うことが出来れば、自分の自信につながる。自信がある人はその背後に大きな挑戦がある。自信がある人に多くの人がついていくのは、皆がためらうような時にチャンスを逃さず、積極的に掴んでいくような人だからだと思う。そういう人に私もなりたいと思う。

2 日目は、東大見学をした。私は法学・経済の講義を受けた。講義の内容はよく分からなかったが、雰囲気味わえて良かった。今までは大学で法学部に行きたいと思っていたが、果たしてそれが本当に自分のやりたいことなのか少しわからなくなった。もう一度自分について考え直してみようと思った。

以上のように、わたしはこの約 2 日間で様々な人と関わり多くのことを感じてきた。親の勧めで参加したこの研修が自分にとってかなり大きなものとなったと思っている。こんなに考え方が変わっていくなんて思っていなかった。参加して本当に良かったと思っている。私も、誰かの考え方を変えるような影響力を持った人になりたいと思った。学力があるから必要とされるのではなく、人として必要だと思われるような存在になりたい。そのために広く、そして深く人と関わっていきたい。現在、私の成績は悪く、他の二高生と圧倒的な差を感じる日々である。しかし、二高に入ったことで私はそれが他の二高生の努力によるものだと知った。外から見たらもともと才能があったのだと思ってしまいが、そうではないことに二高に入学して気付いた。みんなは日々努力をされていて尊敬出来る友達ばかりだ。他人の夢を笑わずお互いを高めていけるような二高の仲間と共に過ごし、私も自分の道を作っていきたい。そして、自分の学力を高める努力もしていこうと思う。